

(様式1)

令和3年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

(整理番号) 016	提案機関名 一般社団法人神奈川県畜産会
要望問題名 新たな暑熱対策の検討	
要望問題の内容 【 背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等） 】 昨今の異常気象による影響は特に、夏場の気温上昇による生産性の低下だけでなく時には、家畜の生存を脅かすまでとなっており、これまでの既知の暑熱対策では克服できない状況にある。現状の畜舎において可能な新たな有効な対策の検討をお願いしたい。	
解決希望年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター <input checked="" type="checkbox"/> ②畜産技術センター    ③水産技術センター    ④自然環境保全センター
備考	

※ ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	畜産技術センター	担当部所	大家畜グループ
対応区分	①実施 <input checked="" type="checkbox"/> ②実施中    ③継続検討 <input checked="" type="checkbox"/> ④実施済    ⑤調査指導対応    ⑥現地対応    ⑦実施不可		
試験研究課題名    (①、②、④の場合) ②：国産エンリッチドケージによる暑熱対策技術の検討（令和2～3年度） ②：環境制御型養豚施設の実証試験（令和元～2年度） ④：コケパネルと超微細高密度オゾン水で夏涼しく、冬暖かい衛生的な飼養管理が可能（平成18年度成果）			
対応の内容等 鶏については、バッテリーケージ（対照）とエンリッチドケージでの飼育密度とケージ構造の違いによる暑熱時の影響について試験を実施しています。また、鶏種銘柄間の暑熱耐性も併せて検討しています。 豚については、環境制御型養豚飼養施設にて、豚体への送風、ミストによる給気の冷却の効果について試験を実施しています。また、過去に、コケパネルの豚舎屋根への設置と畜舎内への超微細高密度オゾン水の散布による豚舎内環境の変化等について調査し、天井裏温度、豚房温度、体表温度の低下を確認しています。 畜舎の暑熱対策はこれまでに多数の研究がありますが、畜種や畜舎毎に環境が大きく異なるため、個別の状況に対応した方法を選択することが必要です。また既知の対策では対応が困難なケースも想定されますので、現地で利用できる資材や方法等の新しい情報につきましても、引き続き情報収集に努めてまいります。			
解決予定年限	①1年以内 <input checked="" type="checkbox"/> ②2～3年以内    ③4～5年以内    ④5～10年以内		
備考			